

2007 年末～2008 年始における山の気象の記録

2008 年 4 月 (社) 東京都山岳連盟気象委員会

東京都山岳連盟に加盟している団体の協力により、6 つの登山パーティから 2007 年末～2008 年始における山の気象データを収集した。そのデータをまとめた資料を作成したので、気象遭難事故防止や冬山気象の研究に活用していただきたい。

今冬は寒暖の変化が大きい傾向にあつて、日本海側に当たる各山域では一時的に好天に恵まれたかと思うと、その反面一時的には猛吹雪の大雪に見舞われるといった天気変化が激しく、正月の元旦には北アの槍平や 2 月の長野県小谷村の梅池高原などで雪崩による遭難事故が発生した。

当期間の年末年始は、北アルプスを中心として 12 月 26 日～27 日と移動性高気圧におおわれて全般に良い天気に恵まれたが、12 月 28 日には大きな気圧の谷の通過に伴って全国的に悪天となり、12 月 29 日の後半から強い冬型の気圧配置(天気図型)となつて、特に日本海側に当たる山域では大雪に見舞われた。

次に、各日ごとに山の気象データと天気図とから、その日の天気状態をみていく。

・12 月 26 日～27 日

26 日は大陸高気圧の張り出しが弱まりはじめ、27 日には日本付近を移動性高気圧がおおってきたため全国的に好天に恵まれ、気温も上がりはじめた。

・12 月 28 日

日本付近をおおった移動性高気圧も日本の東へと移動し、その後には九州付近に低気圧が発生し、中国北部には発達中の低気圧がある。一方、500hpa の高層天気図にもハッキリとした気圧の谷が現れている。

・12 月 29 日

上層の気圧の谷は発達しながら順調に東へと進んでおり、これに伴って地上の低気圧群も発達しながら日本付近を通過して、広い山域にわたって悪天をもたらした。これらの低気圧群を伴った大きな気圧の谷の前面では上層まで暖気が流入し、各地で気温が上がり富士山でも平均気温が－8 位まで上がっている。

このため各地の悪天は雨の天気となり、山においても雪から雨の天気へと変わった。

・12 月 30 日

低気圧群を伴った大きな気圧の谷は日本付近を通過したあと、一つに纏まって千島列島方面に去り、一方上層の寒気を中心が日本海上空へと移動し、低気圧は更に発達した。このため日本付近の気圧配置は強い冬型となつて気温も急下降し、北アを中心とした山域の天気は雪となり、剣岳周辺では午後になって風も強まってきた。

・12 月 31 日

気圧配置は強い冬型となつて日本海側に当たる山域では風雪の天気となり、剣岳や槍ヶ岳周辺でも終日風雪模様の天気となった。日本海の上空には寒気を中心がある。

槍ヶ岳の槍平では一晩中降雪がつづき、数箇所雪崩れる昔を聞いている。

・1 月 1 日

引き続き強い冬型の気圧配置で、北アを中心とした山域では終日風雪の天気で降雪量も多く、新積雪も 50cm～100cm 位に達している。

日本付近の天気分布は冬型のため、太平洋側に当たる山域では冬晴れで天気はよいが、日本海側との中間に位置する北八ヶ岳方面では強い季節風のため、稜線付近では雪雲がかかりやすい。

尚、北アの槍平付近では昨夜の 11 時 30 分頃に表層雪崩が発生し、死者 4 名を出す遭難事故が起きた。12 月 30 日から降り出した大雪と、その前の晴れや雨の天気に関連して起きた模様である。

雪崩の原因は 12 月 27 日～28 日の晴天と、29 日の降雨によって雪面が緩んだところに 30 日の寒気進入で雪面が凍りつき、その上に多量の新雪が降り積もったための表層雪崩と考えられる。

今回のケースは雪崩が発生しやすい典型的なモデルケースで、雪崩発生前の天気経過が大きな要因となっていることを示している。

・1 月 2 日

強い冬型の気圧配置も上海付近に大陸高気圧の一部が出現し、日本付近の縦じま模様の等圧線も間隔が広まってきたため、強い冬型の気圧配置も次第に弱まる気配をみせている。

このため連日強い風雪のつづいた北ア方面の天気も回復の兆しがみえ、長野の戸隠方面でも晴れとなり、北八ヶ岳方面は快晴となってきた。

〔文責 城所 邦夫〕

2007 年末～2008 年始の山の気象データ

北アルプス 剣岳 早月尾根（東京都山岳連盟所属 平成山岳会）

月 日	場 所	気象データ
12 月 30 日	早月小屋 2200m	17 時 雪 気温-11 風向南西 朝から雪、昼過ぎより強風 積雪 1m 弱層有（雪面から 30 cm）
12 月 31 日	早月小屋 2200m	17 時 終日吹雪 気温-14 風は富山湾側から常時吹いている 積雪 1.1m 弱層有（雪面から 120 cm）
1 月 1 日	早月小屋 沢筋 1700m	11 時 終日雪 気温-7 風向南西 弱層有（雪面から 70 cm）

北アルプス 槍ヶ岳中崎尾根（東京都山岳連盟所属 鵬翔山岳会）

月 日	場 所	気象データ
12 月 30 日	新穂高温泉～白出沢出合～滝谷出合～槍平	雪 新穂高温泉では雨（予想以上に気温が高い） 天候は湿雪、白出沢出会で湿気のない雪に変わる 積雪 50～70cm
12 月 31 日	槍平～奥丸山から少しくだったところで幕営	雪 昨夜の積雪は 50～60cm 程度 尾根の手前の急斜面は頭までの新雪のラッセル 降雪と視界の悪さで、天候条件は今日、明日が最悪と考えられた 一晩中降雪が続き、数箇所雪崩れる音が聞こえてくる （29 日は、山中も雨だったことを別パーティから聞く）
1 月 1 日	幕営地～200m 程度前進～撤収～イヌノクボ沢 2200m 付近で幕営	雪 首まで潜ってのラッセルとなる 斜面の降雪、斜面下部のトラバースを考え表層雪崩の危険性大と判断、即座に行動の中止を決定し幕営地に引き上げ、テント撤収し下山す
1 月 2 日	幕営地～白出沢出合～新穂高温泉	小雪 膝までのラッセル

戸隠連峰（東京都山岳連盟所属 童人トマの風）

月 日	場 所	気象データ
12月29日	一夜山登山口～一夜山コル～P8(1661m)の先で幕営	雨のち雪
12月30日	幕営地～P3～P2～P1の先で幕営	曇り時々雪 次第に冬型の気圧配置となる 戸隠の周辺は穏やかな曇天で小雪が舞う程度
12月31日	幕営地～西岳～本院岳～最低コル(1719m)で幕営	雪 強い寒気が入り冬型が強く 朝から雪が降り続く 昨日から一気に深さを増した雪を掻き分け腰～胸までのラッセルが続く
1月1日	幕営地～八方睨～蟻の戸渡り～西窟～尾根末端で幕営	雪 昨夜もかなりの降雪でラッセルが深い
1月2日	幕営～戸隠神社奥社	晴れ

中央アルプス木曽駒ヶ岳（東京都山岳連盟所属 四季山岳会）

月 日	場 所	気象データ
1月3日	千畳敷～宝剣山荘～木曽駒ヶ岳～中岳～宝剣山荘～千畳敷	晴れ、風強い 千畳敷-12 2時間のラッセルで稜線へ

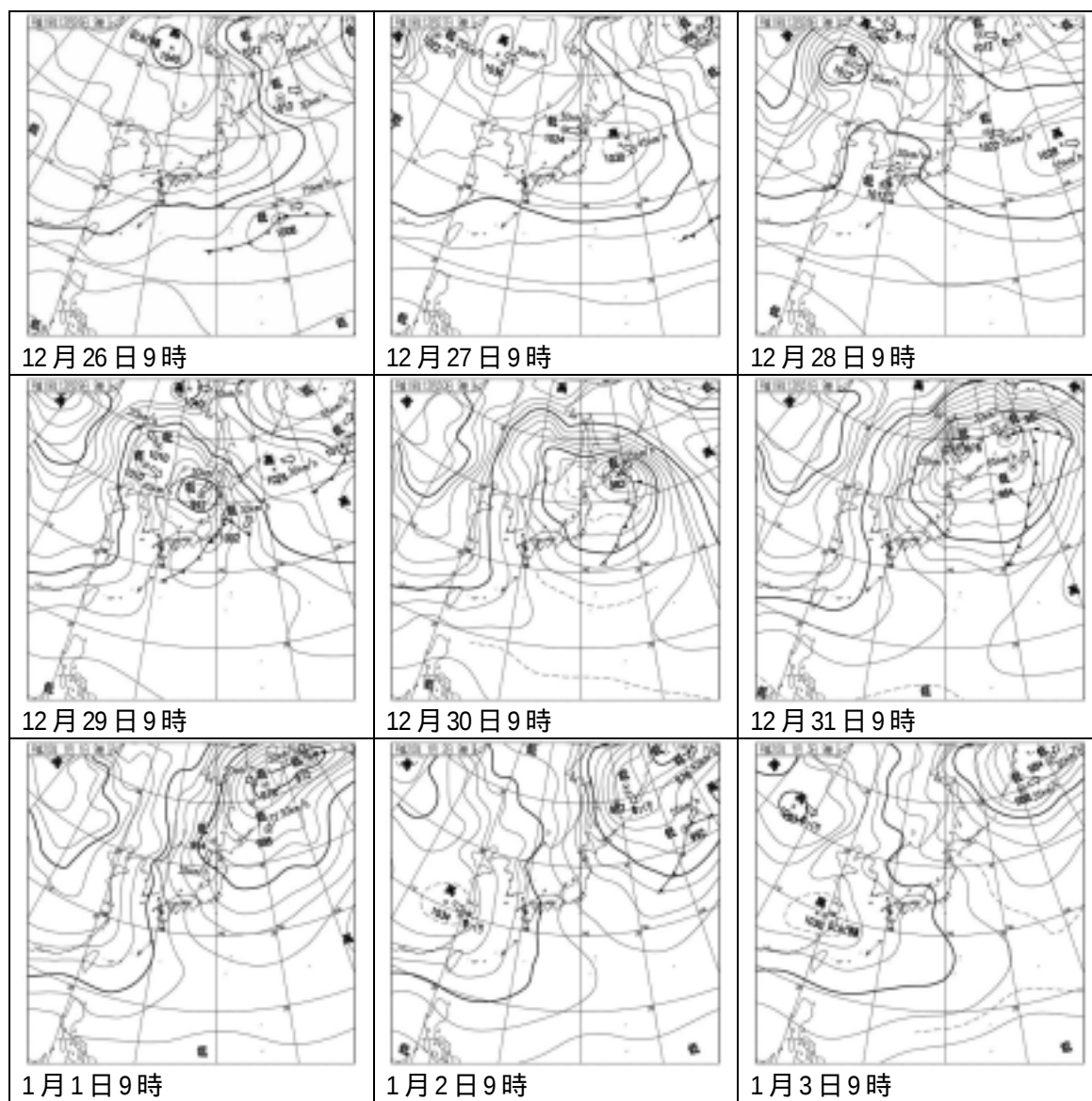
北八ヶ岳白駒池山行（東京都山岳連盟所属 アルプス灯会）

月 日	場 所	気象データ
12月31日	八王子駅～蓼科ピラタスロープウェイ乗場	長野県内に大雪注意報
1月1日	蓼科ピラタスロープウェイ乗場～丸山～青苔荘	曇り時々雪 雪はちらつく程度で風も穏やか 丸山積雪 70～80cm 位か
1月2日	青苔荘～白駒荘～高見石～丸山～渋の湯	快晴 全面氷結した白駒池を歩く 高見石展望良、高い山に雪雲がかかっていた

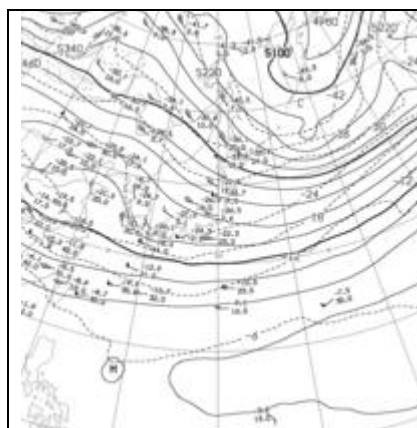
（上州）黒檜山・地藏岳（東京都山岳連盟所属 日本ハイキングクラブ）

月 日	場 所	気象データ
12月31日	青木別館～黒檜山北登山口～黒檜山～登山口～青木別館	時より雲が切れ、青空と樹氷のコントラストが幻想的 黒檜山山頂はガスの中で展望なし 黒檜山の三角点は雪に埋もれている
1月1日	青木別館～赤城大洞～地藏岳～青木別館	地藏岳への途中で初日の出を迎える 風もなく、寒さも厳しくは感じない 地藏岳からの展望は良好

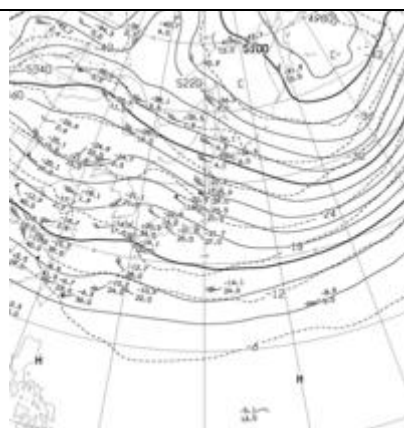
2006 年末～2007 年始の地上天気図（気象庁提供）



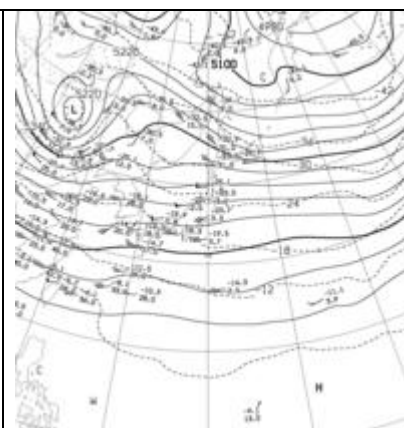
2006 年末～2007 年始の 500hPa 高層天気図（気象庁提供）



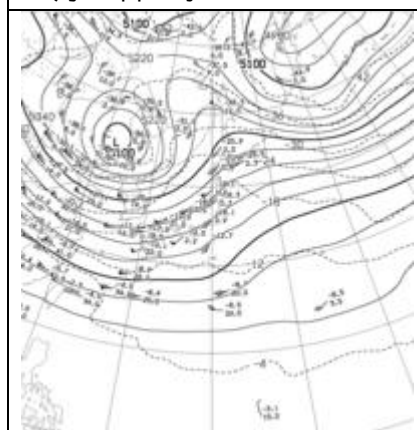
12 月 26 日 9 時



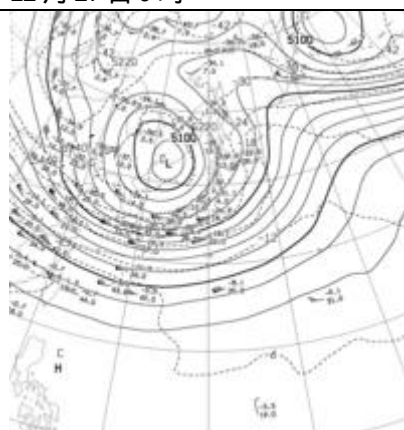
12 月 27 日 9 時



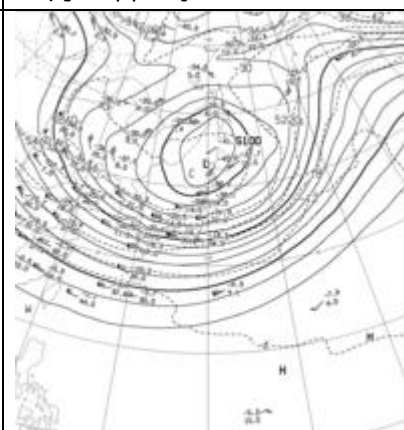
12 月 28 日 9 時



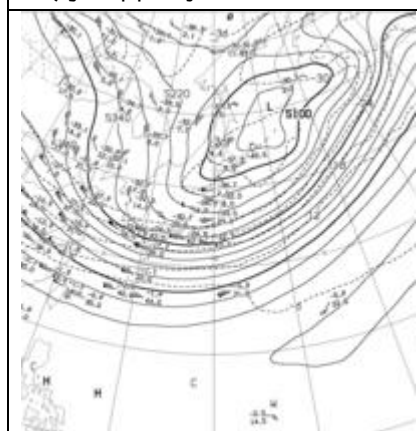
12 月 29 日 9 時



12 月 30 日 9 時



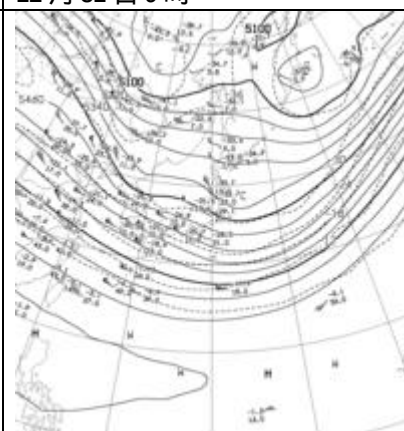
12 月 31 日 9 時



1 月 1 日 9 時



1 月 2 日 9 時



1 月 3 日 9 時

富士山の気象データ（気象庁提供）

